

科目名	生物	単位数	4単位	学科・学年	全（選択）科	3年
使用教科書	改訂版 生物	数研出版	副教材等			
学習目標	生物基礎の学習内容を元に、生物や生物現象についての学習を通して、自然に対する関心や探究心を高め、生物学的に探求する態度と能力を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。					
学習評価	○ 次の四つの観点に基づき、学習内容のまとめり（定期考査までを学習のひとまとめり）ごとに下の評価規準により評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。					
	①関心・意欲・態度	自然の事物・現象に関心を持ち、意欲的・積極的な態度で授業に臨んでいるか。				
	②思考・判断	自然の事物・現象を多様性と共通性、変化と平衡という見方でとらえ、自然を総合的にとらえられるか。				
	③技能・表現	自然の事物・現象についての探究活動（実験実習）を円滑に行うことができ、これをレポートにまとめることができるか。				
	④知識・理解	自然の事物・現象に接するなかで、知識・理解を深めることができるか。				
		評価方法\観点	①	②	③	④
学習状況観察		◎	—	—	○	机間巡視、小テスト
探求活動・課題プリント		○	◎	◎	◎	補助教材
ノート・プリント提出		◎	—	◎	—	学期に1～2回提出
ペーパーテスト		—	◎	○	◎	定期テスト
※表中の◎は観点の中でより重視するところです。						
履修上の注意	1 日常生活の中で起こる様ざまざまな自然現象に興味をもち、その法則性について考える態度をもつこと。 2 疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。 3 学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。					

学期	月	学 習 内 容	時 数	学 習 の ね ら い	学 習 活 動 (評 価 方 法)	
1 学 期	4	第1章 細胞と分子 1. 生体を構成する物質 2. タンパク質の構造と性質 3. 酵素のはたらき 4. 細胞の構造 5. 物質輸送とタンパク質 6. 情報伝達・認識とタンパク質	34	細胞小器官や細胞の働きを分子レベルで見えていく。	学習状況観察 補助教材 提出物 中間テスト	
		第2章 代謝 1. 代謝とエネルギー 2. 呼吸と発酵 3. 光合成 4. 窒素同化		呼吸や光合成の仕組みを理解するとともに、窒素同化についても理解する。		
	5	第3章 遺伝現象の発現 1. DNAの構造と複製 2. 遺伝情報の発現 3. 遺伝子の発現調節 4. バイオテクノロジー		DNAの構造、遺伝情報の複製・転写・翻訳の仕組み、遺伝子発現の調節を学び、バイオテクノロジーの原理とその応用を見ていく。		
	6	第4章 生殖と発生 1. 遺伝子と染色体 2. 減数分裂と遺伝情報の分配 3. 遺伝子の多様な組み合わせ 4. 動物の配偶子形成と受精 5. 初期発生の過程 6. 細胞の分化と形態形成 7. 植物の配偶子形成と発生	32	減数分裂により遺伝的に多様な組み合わせが生じることを理解するとともに、遺伝子の連鎖と組換えについても理解する。 配偶子形成と受精、卵割から器官分化の始まりまでの過程について学び、細胞の分化と形態形成の仕組みを理解する。 植物の配偶子形成と受精、胚発生と花器官の分化について学ぶ。		学習状況観察 補助教材 提出物 期末テスト
		7	第5章 動物の反応と行動 1. ニューロンとその興奮 2. 刺激の受容 3. 情報の統合 4. 刺激への反応 5. 動物の行動	28		
2 学 期	9	第6章 植物の環境応答 1. 植物の生活と環境応答 2. 発芽の調節 3. 成長の調節		植物が周りの環境からの刺激に応答する仕組みを理解する	学習状況観察 補助教材 提出物 中間テスト	
	10	4. 環境の変化に対する応答 5. 花芽形成・結実の調節				
	11	第7章 生物群集と生態系 1. 個体群 2. 個体群内の個体間の関係 3. 異種個体群間の関係 4. 生物群集 5. 生態系における物質生産 6. 生態系と生物多様性	28	個体群や生物群集について、それぞれの特徴を学習する。次に生態系における物質生産について学習する。さらに、生物多様性に影響を与える要因を理解させ、生物多様性の重要性を認識させる。		
	12	第8章 生命の起源と進化 1. 生命の起源と初期の生物の変遷 2. 多細胞生物の変遷 3. 進化のしくみ		進化がどのように裏づけられ、その仕組みがどのように説明されているかを学ぶ。		

3 学 期	1	第9章 生物の系統 1. 生物の系統 2. 生物の多様性		生物の分類の方法，系統を明らかにする方法，現在明らかになっている生物の系統について学ぶ。	学習状況観察 補助教材 提出物 期末テスト
		第5部 生態と環境 第1章 生物の生活と環境 第1節 環境要因 第2節 環境と適応	18	ばらばらに生活しているように見える動植物が子孫を残すために，同種の個体と相互作用を及ぼし合っていることを理解する。	